

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272201086		
法人名	ライフサポート 永楽台		
事業所名	グループホーム そよ風SUN		
所在地	千葉県柏市永楽台3-4-2		
自己評価作成日	平成22年2月28日	評価結果市町村受理日	平成22年5月7日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓ このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8
訪問調査日	平成22年3月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模だからこそ出来る個別ケア
一人ひとりの個性を求めることを重視しつつ、本人が望んでいる事を押し量り、判断力や表現力が低下している認知症の方を安心感と自信を持てるよう配慮し、入居者全員がゆったりと楽しい日々を過ごして頂ける支援サービスを運営しております。
ホームの理念を確認しながら日々の業務の中、しっかりとした職員の専門性と多くの工夫でその人らしい暮らしのケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム そよ風SUN」は民家を改修した施設となっており、民家特有の温かみを活かした造りとなっている。施設のテーブル等は入居者の身長等に合わせ、加工してあり、安全面・利便性に配慮している。また、施設内はオール電化であり、火災防止に配慮した設備となっている。施設方針の根底に「第2の家庭」と位置付けており、家庭的な施設運営・入居者の自由な生活の支援に努めている。職員全員が笑顔を大切に、入居者とのコミュニケーションを密に図っており、まるで施設が一つの大家族のような雰囲気を感じさせる施設運営に取り組んでいる。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します					
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングの都度、運営理念に添って先ずスタッフ自ら研鑽を重ねております。	「家庭的な環境」「安心と尊厳を守り、快適な共同生活」「健康な暮らし」を主眼とした施設独自の理念を掲げている。会議等で理念の確認を行い、理念に基づくサービス提供の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	民家改造型、昔から地域に居住していたので近隣との交流はそのまま続いております。	理事長・事務長が地域住民であり、散歩や外出時には、挨拶を交わす等、地域とのつながりは変わることなく継続されている。現在、自治会の役員を務めており、自治会行事には毎回欠かさず参加している。近隣住民がお茶のみやボランティア等で、気軽に来訪できるよう施設を開放しており、地域との交流が密に図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に三回位の運営推進委員会を行い、その時の話題、評価をミーティングしている	町会長・民生委員・市役所職員・家族・施設職員等を構成員として、年3回、運営推進会議を開催している。会議では、施設の活動報告や外部評価結果報告等を行い、施設の理解促進に努めていると共に、意見・情報交換を行っており、サービスの質の向上に活かしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にはいつも地域の方々と5～6人呼ぶのでその時伝えています。	日頃から市に対して、相談や報告を随時行っており、連携を図っている。事務長が柏市グループホーム連絡会の理事を務めており、連絡会を通じて、意見・情報交換を行い、市と連携を図る体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関ドアの鍵、ベランダの鍵などいつも開放されています。	日中は玄関・ベランダの鍵は施錠せず、入居者の自由な生活を支援している。また、センサーや呼び出しチャイム等を設置しており、入居者の安全確保が行われている。職員が身体拘束排除に関する講習会に参加していると共に、会議の議題に上げ、全職員が身体拘束排除に向けての意義を理解・共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者7人、スタッフ3人、いつも目が行き届くため、他の人の虐待が見過ごされる事などありません。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すべての利用者に家族がありますので成年後見制度については話し合う器械を失ってます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定等は書面により説明し、理解、納得を都度計っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族など外見や要望を伝えられるよう計ってますが、外部者へ表わせる機会はありません。	家族の訪問時・電話連絡時に、意見・要望等を積極的に確認している。また、契約が終了した家族に対しても意見等を確認しており、様々な視点からの意見を参考にサービスの質の向上に活用できるよう努めている。現在の所、意見・要望等においては、会議等で話し合い、適切な対応に努めており、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に行うミーティングで出た意見によりシフトや介護の方法等変更させています。	会議や勉強会を通じて職員の意見・提案等を聞く機会を設けている。また、日々の業務において、管理者は職員とコミュニケーションを図りながら、個々の意見や思い等を把握できるよう努めている。職員から挙げられる意見・提案等を取り入れ、運営に活かしており、職員の労働意欲の向上及びサービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	何分にも定まった所得、食費や暖房を削ってまでは給与水準を上げる訳にもいかず、職員自らここにいる良さを見つけてくれています。退職率が低いのが救いです。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員達は自ら進んで研修に参加してます。シフトを組み替え、お互い学び合っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	祭事を合同で行う為、その機会は大いにあります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○ 初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者にとってすべてが不安、その思いを訴える時、じっくり話を聞いてあげる。同じ人が、同じ時間に来て、心開くまで寄り添う。		
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族もすべてが不安、利用者の笑い声を聞かせるだけで安心、私たち職員との信頼関係も深まります。		
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の笑顔、どれだけ多く引き出せるか。職員の感性と共に多くのミーティングが必要。		
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	味付けは、作り方は、年輩者の好きな料理や分かるきり方等を聞いてみる。常に台所に立つ作業をする。		
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当初は家族共々、夕食や散歩等を共にして状況を把握しやすいようにしています。		
20	(8)	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩は馴染の家の近くを予定し、本人の家は勿論の事、馴染の家を共に訪れる。	入居者や家族から生活歴等を確認しており、要望に応じて馴染みの場所へ外出している。また、手紙や訪問等にて馴染みの人達との関係を継続できるよう支援している。家族との外出・外泊は自由となっており、家族関係の継続を支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話題は違っても孤立しない様、顔を見つめながら、話題に入りやすい様に、その話題をくり返し問う。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ねんがじょうなどで会いたい、今一度会いたい人として伝えてあげる。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昔からの趣味や思い出話を聞いておいて、折に触れ、その話題と共に披露してもらう。	入居時に本人や家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。また、日々の生活の関わりの中で、会話・行動・表情等から意向を汲み取っている。会議や申し送り等にて常に情報交換を行い、職員全員が入居者の意向を把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人は勿論の事、家族からも沢山思い出話を聞いておいて、馴染の暮らしを再現してみる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティングで話し合うことで、気がつかぬ事も分かり、それに会う、その人の暮らし方を考えてみます。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	折に触れて、家族が見た利用者の状態を大切に踏まえ、ケアマネージャーの見た状態との話し合いをしてからの計画を作成している。	本人・家族の意向や意見をもとに、会議等にて意見を出し合い、介護計画を作成している。定期的に介護計画の評価や目標の達成状況の確認を行い、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。常に、入居者の立場に立って意見交換を行い、本人本位に検討すると共に、常に新しい情報を共有しており、現状に即した介護計画の作成に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を各職員が日報に記入しているもので把握しながら活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出好きな人が来た事で毎日外出するように心掛けている内に他の人も外出(散歩)を好むようになりました		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(盆踊り・芸能大会・ふれあい運動会・グランドゴルフ等)に参加しながら地域にとけ込めるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長い間、かかりつけていた医師との信頼関係のある人はそのまま続行し、強制せず対応しています。他の方は訪問医師による。	入居者・家族が希望する医療機関の受診が可能になっており、要望に応じて、職員が通院の付き添いを支援している。また、定期的に内科医・歯科医による往診が行われており、適切な医療支援が行われている。看護師職員による適切な健康管理が行われており、詳細に記録が取られている。緊急時・必要時に看護師や医療機関が連携し、適切な支援が行えるよう体制を構築している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問医師の丹野先生は厚生病院の医師でもある為、病院と家族の関係が親しみやすく、且つ詳細である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問医師の丹野先生は厚生病院の医師でもある為、病院と家族の関係が親しみやすく、且つ詳細である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	月2度の丹野先生の訪問、週3度の看護師の勤務、終末期の利用者の家族も安心しております。	終末期・重度化における施設の方針や対応方法等を家族に説明しており、同意を得ている。終末期においては、本人・家族の意向を踏まえて、職員・看護師・医師等と話し合い、出来る限りの支援が行えるよう体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が全ての事故の応急手当を心得てはおりませんが、慌てず、自らが先ず落ち着いた行動を問いかけております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の時は、近所にも声を掛けをして協力をお願いしております。	施設内はオール電化となっており、火災の防止に配慮した設備となっている。救命救急講習・消火器訓練・避難訓練等を実施しており、非常災害時・緊急時の為の対応方法を身に付けている。地域住民には、日頃から協力の呼びかけを行っており、協力体制を構築している。	
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人間として相手を傷つけない言葉で制止する問いかける等など、いつもミーティングの話題の一つです。	トイレ・脱衣所・二人部屋等の施設各所にロールカーテンや仕切りを設置しており、個々のプライバシーに配慮している。また、接遇においては、失礼のない、一人ひとりに合った言葉使いを心掛けており、本人らしい生活の支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全ての希望を叶えてあげる訳にはいきませんが、基本的には自分の事をどうしたいのか、決定権はあります。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活のルールは在ります、食事の量や速さ、時間の配分等一人ひとりのペースを守りながらです		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔を一番に、毎日の洗顔や髪の毛の身だしなみ等、又洋服の組み合わせ等話題(会話)の種です。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	何が出来なのかによって、出来るものを出来る人に声掛けして協力してもらっています。	入居者の希望や能力に応じて、準備・調理・片付け等を共同で行っている。ひな祭り・誕生日会等の行事の時は、職員と入居者が季節の食材を取り入れ、献立にも工夫を凝らしながら、楽しい食卓作りに努めている。また、外食会を実施しており、食に対する楽しみを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日報に水分量、食事量を記入し、各自が把握しやすいようにしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、おやつ後、就寝前と口腔ケアをすることが椅子を立ったり、座ったり一つの運動と思っております。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見計らい、誘導する事で排泄の失敗を防ぐ事が出来ます。又一度の失敗が全てとは思わないこと。	排泄記録を活用しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握しており、声掛け・誘導にてオムツやバットの使用頻度をできる限り少なくするよう努めている。夜間においては、センサーの設置やトイレのドアを開放し、使用し易いよう配慮する等、入居者の安全確保の工夫が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	アローゼや整腸剤等と併用しながら調整を計っております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全てが同じ方法で同じように行かず、一人だけいつも入浴を嫌がり、あらゆる方法を心掛けております。	入浴は毎日実施しており、希望に応じて回数や時間等柔軟に対応している。また、シャワー浴・清拭・部分浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。脱衣所には、2か所ロールカーテンを設置しており、トイレから浴室に行く際に、他者の目に触れないよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠い時の状態が分かりますので、日中でも休息は必須です。夜は静かなので皆様安眠です。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・看護師が常に診ておりますので状態を伝え易く、又職員も安心です。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族から送られてくる好きなもの、でも全員にお裾分け。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○ 日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の外出を心掛けております。	希望や天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。また、福祉車両を活用して、外出活動の幅を広げている。柏市グループホーム連絡会にて、コンサートやバス旅行等が企画・実施されており、外部の人達との交流も図られている。	
50		○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1日、15日神社参り、うまいもの物産展、このような時はお金を渡して好きなものを買ったりしております。		
51		○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状等、宛名は家族に書いてもらいましたが、内容は自分で様子を書きました。		
52	(19)	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	しておりますが他から見てはどう思うでしょうか、家族の方々はいつも明るい家ですとほめてくれていますが…。	施設は民家を改修しており、民家特有の温かみを活かした施設造りがなされている。施設内の家具は、入居者の身長等に合わせて加工していると共に、電気や湯沸かし器のスイッチを高い位置に設置しており、入居者の安全面に配慮している。また、パネルヒーターを活用し、室温は適温に保たれており、心地良い環境作りがなされている。日当たりの良いリビングには、テレビ・カラオケ・テーブル等が設置されており、入居者が楽しく過ごせる共有空間となっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士で過ごすことはないですが友達や家族が来たら各自の部屋で。		
54	(20)	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	思い出の品、仏壇等揃えております。	希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となり、居心地良く生活できるよう配慮している。また、希望に応じて畳や布団を使用する事が可能となり、生活歴に合わせた居室作りに努めている。センサー等を活用し、夜間の安全確保ができるよう工夫している。また、各居室にエアコン・パネルヒーターを設置しており、適切な空調管理が行われている。	
55		○ 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者七人、そして職員全員、訪れる家族や友人たち誰もが安心して、楽しみにして玄関を開けられる様なグループホームでありたいと努力しております。		